

# 学生の成績変動に就いての調査

浅田 幸作

Reserch About the Record of Students

Kousaku ASADA

The good students at the entrance into our applied chmistry department dropped to bad in the advance from 1st school year to 2nd and 3rd ones, and at last some of them stayed back in the class. I reserched about the source of these results.

## 1. はじめに

本学応化の学生が入学時の成績が上位であったものが修学中に成績が非常に下るもの、中には留年するものも出るのでその原因が何に影響するものであろうかを調べて見る必要があると思って此調査を行って見た。

## 2. 調査

### A 4 年次学生

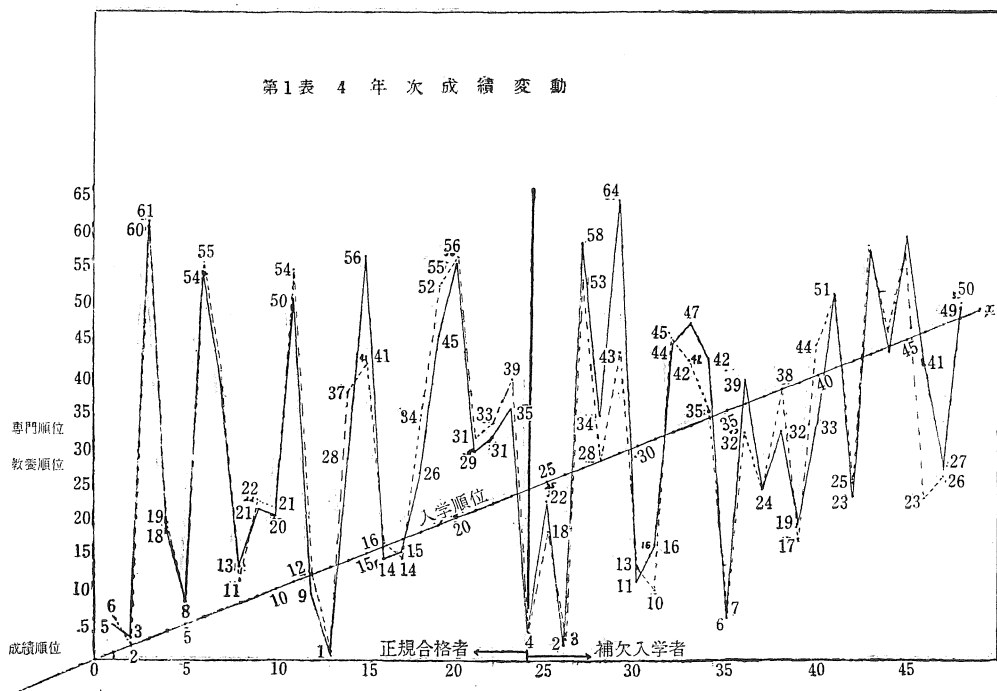
先づ4年次の学生に就いて調べた結果を第一表に示した。表はOX軸に入学順位、縦軸に変動した順位を取ったもので実線は教養課程即ち1.2年時の変動順位、点線

は3年即ち専門課程の変動順位を記したものである。

(此表は調査対象48名中正規合格者、19名補欠入学者29名の結果である。)

是れを見ると教養の変動と専門のそれとが殆んど並行している。即ち教養で成績が下降したものは専門でも取り戻す事は少ない様でそのままになってしまう様である。(但し応化では4年は卒研が殆んどで学課目は僅少だから)

これで解る様に成績上昇組に入るのは正規合格者6名に対し補欠入学者は13名と補欠が正規の倍以上も多くなっている。



又成績下降組は正規合格者が18名に対し補欠入学者は11名と少なく前の成績上昇組の結果と全く正反対の現象を示している。

この原因についての個々の学生の特権事情もあろうが大きな一つの要素としては入学に依って一応今までの受験で張りつめた気持から解放された反動で無為の生活に耽けるものが多い事しかも成績の良い正規合格者に多い事を示している。

これに反し補欠入学者は過去の成績不良を挽回すべく努力している結果と考えられる。

その他の要素としては通学事情、家庭事情、運動、趣味等からの影響も考えられるので是等の点を調べて見ると次の様な結果となる。

1. 通学事情

	自 宅 通 学			寮又は宿下	計	
	県外	市外	市内			
成績上昇組	正規合格者	0	1	2	3	6
	補欠入学者	2	5	5	1	13
成績下降組	正規合格者	1	8	6	3	18
	補欠入学者	5	3	3	0	11

この表から解る様に正規合格者即ち成績の良い学生では自宅通学を良くする要素にはなり難い様だが補欠入学者には自宅通学が成績を良くする様である。

然し自宅通学でも県外即ち三重、岐阜の様な遠隔通学では時間の空費も多く成績は下降の原因となる様である。

2. 父兄の職業

	会社員	公務員	自営等	計
成績上昇組	2	2	4	8
補欠入学者	4	4	3	11

成績下降組	正規合格者	6	3	9	18
	補欠入学者	5	0	6	11

父兄の職業は自営が比較的多く資力のある家庭の子弟である事は想像され、それが成績に強く影響しては居ない様であるがどちらかと言えば下降の方に多い様で父兄の監督の強くない結果であろうと思う。

3. 次に兄弟の有無に就いては

	兄弟有	無	計	
成績上昇組	正規合格者	5	1	6
	補欠入学者	13	0	13
成績下降組	正規合格者	16	2	18
	補欠入学者	8	3	11

一般に兄弟2~3人有が多く1人子は非常に少ないが1人子は成績は余り良くない様で兄弟のある事は余り成績とは関係ない様である。

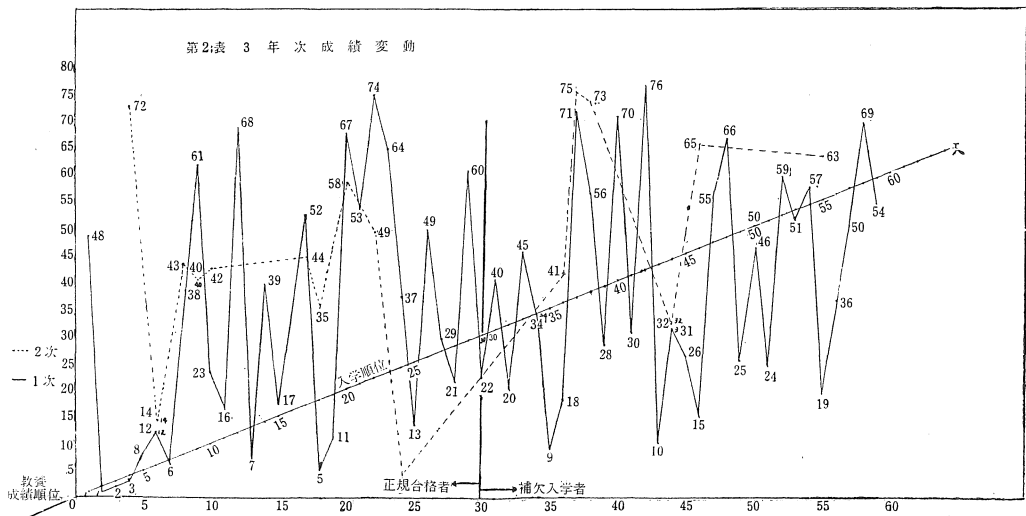
此外に運動、特技、趣味等に就いては応用化学科の学生では運動選手は殆んどなく又、特技も殆んどなく只算盤の何級かを持ったものが幾人かあるがその学生は殆んど全部成績上昇組に入っている。

又、趣味も大部分が音楽、映画を楽しむとか釣を楽しむ、山登り、旅行を楽しむ程度で成績に影響を及ぼす様な程度のものでない様である。

B 3年次学生

次に3年次の学生に就いて調べた結果を第二表に示した。

3年次の調査対象は75名でその中一次入試の入学者59名、二次入学者16名の結果で一次入学者を実線で二次入学者を点線で記した。又、入学順位、変動順位の記載方法は第一表と全く同じだが3年次は専門課程が出ないから教養課程のみである。



而して一次入学者59名中正規合格者30名、補欠入学者29名、又二次入学者16名中正規合格者10名、補欠入学者6名でその変動内容は次表の様である。

	一次	二次	
成績上昇組	正規合格者	10名	1名
	補欠入学者	18名	1名
成績下降組	正規合格者	20名	9名
	補欠入学者	11名	5名
計	59名	16名	

これで解る様に成績上昇下降の傾向は4年次の学生と全く同じ様な結果になった。

即ち正規合格者の中には成績下降組が多く補欠入学者の中には成績上昇組が多い。尚二次入学者では正規も補欠も成績下降が非常に多い。

此原因はやはり4年次に述べたと同じように正規合格者は緊張した受験生活から解放され而かも将来の理想というか夢というものを持たぬ種類の学生が多く逆に補欠入学者は自己の成績不良を挽回すべく努力している結果であると思う。

3年次も同様に種々成績に影響するであろう事情を調べた結果は次の様であった。

1. 通学事情 (一次, 二次を合せて)

	自宅通学			寮又は 下宿	計	
	県外	市内	市外			
成績上昇組	正規合格者	1	2	2	6	11
	補欠入学者	3	6	2	8	19
成績下降組	正規合格者	7	8	5	9	29
	補欠入学者	2	5	5	4	16

この表では成績を良くするものは自宅通学よりも下宿、寮の方が多い傾向で悪くするものは自宅通学に多い傾向が出ており4年次学生と同様に考えられる。

2. 父兄の職業

	会社員	公務員	自営等	計	
成績上昇組	正規合格者	3	1	7	11
	補欠入学者	8	3	8	19
成績下降組	正規合格者	9	6	14	29
	補欠入学者	3	4	9	16

4年次同様に父兄は自営が比較的多く資力のある家庭で子弟の教育に強い関心を持たぬ人達の子弟に下降組が多い様である。

兄弟の数に就いては4年次と同様に1人子は非常に少なく75人中6人でその内5人が下降組に入っており兄弟のない事は成績にはマイナスになると見られる。

此外運動、特技、趣味等は4年次同様、特に成績に影響する程は熱中するものもない様でこれ等の点に就いては省略する。

3. むすび

結局以上の調査で成績変動に最も影響を与える要素は通学事情や家庭事情等は大きな要素とは考えられないで最初に述べた様に緊張からの解放と夢を持たない虚無感から来ると考えられる。

然らば此種の学生はどういう気持で入学して来たか、そこから考えて見る必要がある。

一彼等はどういう希望を持って入学して来たのであろうか。彼等の中にはこの専門の仕事、もっと掘り下げれば自然科学の分野で一つの夢を抱いてそれを実現すべく心掛けて入って来たものが幾人あるだろうか。多くのものが只漠然とこの専門を出れば何々の職場に入る事が可能で生活の安定が一応保障されるだろうと言う希望以上のものは持っていないのであろう。

それでは仕事に何んの夢も持たないと言っても過言ではない訳でこの連中が大学の比較的興味の持てない教養の授業を受けるとなれば当然成績は下降する事になる。

だから筆者は茲で提案したい。

入学は出来るだけ多く入学させても二年、三年の試験を厳重に行つて成績不良者は留年又は退学をどしどし実行すれば夢のない学生は自然淘汰されると思う。

筆者は数年前欧州の各大学を視察した際に聞いた事は何の国も大学の入学は資格試験で合格していればどの大学へでも容易に入学出来るが二年、三年に進級する事は非常に困難で何分の一と言う程度しか進級出来ないのが普通だと聞いたがこれで夢を持った学生を選り分けている事になると思う。

勿論これには教師側にも責任がある訳で如何にして学生に興味を感じ夢を自然に持たせる様な指導をするかが問題でそれに就いては種々論議されているが本学でも試みられつつあるが専門課目を教養課程に一部下げて教育するのも一つの方法で専門の教師が教養の基礎課目の重要な事を実例を上げて説きながら専門の講義を興味深く教授して行く事に依つて基礎課目にも興味を持ち、更に専門分野に対しても自然に夢を描く様に仕向ける教育が望めると思うもので、そうして始めて我々教師としての責務を果せるのではなからうか。

かつて北大に居られた外人クラーク教授が学生に向つて BOYS BE AMBITIOUS “学生よ夢を持って” と言われた言葉は誠に至言で学生側にも教師側にも反省すべき教訓であると思う。